

6. 理学部

理学部は、「学術の基礎と一般常識を身につけ、かつ理学における専門的な知識を修得する道を通じて個を確立し、社会の中核において活躍できる人材を育成する」ことを理念としている。理系の学問分野の中で理学部の目的とするところは、原理追究・基礎研究にあり、教育も当然その目的に沿って行われる。すなわち、基礎的知識教養を修め、その土台に立って問題を発見し、解決のための手段を定め、かつ実行できるような人材を育てる点にある。さらに、問題の発見・解決のみでなく、未知の新しい可能性を追求し、前進させる能力を開発していくことも目的とする。これらの目的達成に向けての方式・方策は、学科によって多少の差があり得る。以下の各学科の記述に見られるとおりである。

この理念の周知方法に関して、学生に対しては、入学ガイダンス時に学部長挨拶の中で述べることを中心としている。直後に学科別（含総合理学プログラム）のガイダンスが行われるが、この中でも、各先生から学生へのメッセージの中で述べられることが多い。2年次生向けのガイダンスの中においても同様のことが再現されている。教職員に対しては、これまでのFD活動、あるいは教授会における討論の中で、しばしば議論されており、周知は徹底している。受験生や社会一般に対しては、『キャンパスガイドブック』をはじめとする各種の広報誌の中でやや間接的な形ではあるが周知は行われている。理学部ホームページの中でも、学部長や各学科主任の挨拶の中で表明されている。

また、定期的あるいは随時に行われる理学部主催の各種講演会で、主催者あいさつの中で表明されることも多い。

総合理学プログラム

【 現状説明 】

総合理学プログラムにおいては、理学とその周辺領域の基礎を身につけ、かつ専門的な知識を修得する道を通じて個を確立し、社会の中核において活躍できる人材を育成する目的で理学の横断的な知識と文系の素養を身につける教育を行うべく努力している。

【 点検・評価 】

現在、3年次までしか学年が進行していないので、正確な点検・評価は難しいが、様々な理学を横断的に学ぶ教育課程については学生のアンケートからも評価は高い。問題は、プログラムが学科ではなく、情報科学科、化学科、生物科学科の一部の教員が担当しているため、プログラムの運営や評価の議論に時間がかかり、改善方策の実施に遅れが生じていることである。こうした状況の抜本的改善のためには、近い将来、総合理学プログラムを学科に改編して、専任の教員を確保する必要がある。

また、文系の素養を身につける点で、現行の教育課程には不十分な点がある。

【 改善方策 】

全学的に行われている学部・学科の再編成についての議論の中で、本プログラムの抜本的改善が実現するよう努力を続ける。

全学で議論が進められている副専攻制度の導入を利用して、同じキャンパスにある経営学部の協力の下に文系の素養が身に付く教育課程を追加する。

情報科学科

21世紀知識情報社会の技術基盤の中核を持続的に担う人材を育成する。すなわち、情報コースにあっては、情報科学の基礎と応用能力を身に付け、情報化社会の基盤技術を担う人材を育成する。多様化する情報化社会と急速な技術変化に柔軟に適応し得る力を有して、